

平成28年度第1回市民公募委員サロン開催報告

1 日時

平成28年9月13日（火） 午後7時から午後9時まで

2 場所

職員会館かもがわ 大会議室

3 開催目的

市民公募委員がその意義などを学ぶとともに、様々な附属機関等の市民公募委員が交流し、意見交換を行うことにより、会議において積極的に発言する機会が増え、もって、知識や経験が十分に活かされるとともに、市政への参加意欲が一層高まることを目的とする。併せて、市民参加推進フォーラム委員が他の附属機関等の公募委員の実情を把握することも目的としている。

4 周知・案内

対象：本市附属機関等に在籍する市民公募委員（平成28年9月13日現在実数130名）、本市職員

①本市各所属宛に、対象者への周知を依頼（8月16日）

・対象者、開催趣旨と開催日時をメールで連絡

②本市各所属宛に、対象者への案内を依頼（8月25日）

・確定した開催案内チラシの送付

参加申込は、メール、FAX、電話や、「京都市情報館」に設置した送信フォームで受付。

5 参加者

45名

①市民公募委員 24名

（事前前申込者23名、当日参加者1名）

②京都市職員（一般参加） 6名

③その他 1名

（ゲスト：永橋市民参加推進フォーラム前座長）

④市民参加推進フォーラム委員 9名

（内田委員、太田委員、川島副座長、杉山委員、竹内副座長、樋口委員、水腰委員、壬生座長、吉川委員）

⑥市民参加推進フォーラム事務局 5名

6 タイムテーブル

- 19:00 開会，趣旨説明（壬生座長）
19:10 参加型パネルディスカッション
「市民公募委員ってどんな存在？」
～座長，事務局，市民公募委員…それぞれの立場の本音を聴いてみよう！～
19:50 休憩
19:55 グループ交流（25分×2ラウンド）
20:45 全体共有，閉会

7 参加型パネルディスカッション

【司会】

樋口幸則氏（市民参加推進フォーラム 市民公募委員）

【ゲスト】

永橋爲介氏（市民参加推進フォーラム 前座長，立命館大学教授）

石井雄一郎氏（地域コミュニティ活性化推進審議会 市民公募委員，

元市民参加推進フォーラム 市民公募委員）

西村睦氏（京都駅東南部エリア活性化方針策定委員会 市民公募委員，

元市民参加推進フォーラム 市民公募委員）

大石純子氏（京都市職員 京都をつなぐ無形文化遺産審査会，

まち・ひと・こころが織り成す京都遺産審査会 事務局職員）

（座談会の主な内容）敬称略。

○市民公募委員に期待される役割について

・附属機関等で話し合われる内容は，会議の後，行政の施策となって発信される。その先には，専門家ではなく一般の市民の皆様がいる。専門的になってしまって自分と無関係と感じられる施策ではなく，市民の方が関心を持ち，共感し，協力したいと思ってもらえるような施策になってほしい。学識や専門家の議論だけではなく，市民公募委員も一緒に議論できる場で考えられたものが発信されるということがとても大事だと考えている。（大石）

・多様な状況を抱えている京都市の中で，例えば大学の教授で専門知識があるとはいえ，すべてに通じて意見を言うのは不可能である。私自身、1年目は学識経験者として期待されていたであろう役割をほとんど果たせなかった。市民公募委員は自ら手を挙げ，意見を言いたくて入ってきているはずで，専門家よりもずっと意欲がある人もいる。各附属機関等の座長・副座長，また，他の委員や事務局は市民公募委員のそういった意見を引き出す役割があるのではないか。そのうえで，市民公募委員は，公募委員になった動機を大事にしつつ発言をしていくべきである。（永橋）

○市民公募委員として感じること

・有識者と呼ばれる人の意見だけで本当に市民の意見が市政に届いていることになるのかと疑問に思っ、市民参加推進フォーラムの公募委員に応募した。実際に参加したら、会議の中でどの委員も分け隔てなく意見を言い合う雰囲気があり、話しやすかった。(石井)

・市民参加推進フォーラムでは、わからないことを座長や他の委員、事務局の担当者に尋ねたら丁寧に教えてくれる。今所属する附属機関は、1回目の会議を終えたばかり。議論の内容を深めるために提案したいことがあるので、積極的に伝えていきたい。(西村)

・市民参加推進フォーラムでは発言しやすい状況を作ってもらっている。また、自分の意見が政策に反映され、「市政に参加している」という実感にもつながっている。別の附属機関では、委員の顔合わせと説明を終えたら、質疑応答は残りの15分しかなかった。公募委員としての意見を議事録に残すために発言をしたが、政策にどのように反映されるのか注視していきたい。(樋口)

○対話について

・何か疑問があったり、思っていたのと違うと感じたら、率直に事務局の担当者と直接話せばよい。(永橋)

・行政には毎日いろんな意見が寄せられ、きちんとお聞きする。また、行政がものを考える時に、行政のことだけではなく、実際にサービスを受ける市民の方がどのように感じるかということも考えながらやるべきということは、市の研修でも取り上げられている。率直に意見を事務局に言ってもらえれば、受けとめて検討し、あるいは事情を説明することができる。(大石)

・初回又は年度初回の会議では主旨説明や前年度の取組状況の説明でかなりの時間を費やし、全委員に十分に発言していただけないことが少なくない。今後どのような時間配分で意見を出してもらおうかということを含め、検討したい。意見や質問があれば、何でも聞いてほしい。(市職員)

8 グループ交流, 全体共有

全体を6グループに分け、25分のグループ交流をメンバーを替えて2ラウンド実施。

フォーラム委員はファシリテーターとなって議事進行をするとともに、「聞き役、受けとめ役」となり参加者に質問をしつつ発言を促し、必要に応じ、模造紙に意見を書き出した。

<テーマ>

1セット目 「委員になってみての感想（良いことも悪いことも含めて）」

2セット目 「附属機関等の会議をよくするためのアイデア、心がまえなど」

(グループ交流で出された主な意見)

- ・和やかな雰囲気はどう醸し出せるかということが大事。専門家が専門用語を多用する難しい感じで議事が進行してしまうと、素人考えで口を挟んでいいかというためらいがでる。そういう中であっても、せっかく市民公募委員として市民の立場からの提言なり感想を求められているので、臆することなく自分の考えや感じていることを自由に発言することが大事なのではないか。
- ・一方で、自由にしすぎて、それぞれの立場での意見を言いつつなして会議が空中分解してしまうこともある。自由に意見を言いつつ、双方向に建設的な会議をしようとするなら、あらかじめ会議の到達目標が明示されている必要がある。その部分を担えるのは事務局職員や座長である。資料が事前に配られると、委員としても自習ができて良い。
- ・「日本に京都があってよかった」という気持ちで各自がそれぞれの会議で意見を言っていくと良い。
- ・最近委員として選任されたが、会議はまだ開催されておらず、どのような状況か分らなかったの由来てみた。聞いたら議事録も確認できるし、内容についても教えてもらえることがわかり安心した。どういう目的で開催するのかゴールが明示され、議論が行ったり来たりしないように事前準備ができている会議を望む。
- ・事前の説明があっても難しいことがある。準備をきちんとして、意見が言えるようにしたいので、資料を早めにもらいたい。
- ・会議を休んだ時に、次の会議についていけるようなフォローが欲しい。
- ・市民公募委員とはどのような立場なのかということについて、自分は、市民意見を代表して発言すべきかと気負っていた。素朴に疑問に思った事などを、市民として素朴に発言していいのだということを知り、次の会議で発言しやすくなった。
- ・委員同士の関係づくりをしっかりとていき、話をしやすくなりたい。
- ・委員になって初めての会議を終えたところだが、1回目の会議では専門委員達が事務局に対して専門的な質問をし、足りない資料についてたくさんのオーダーを出して終わった。どうしたらいいのかわからない気持ちであったが、本日のグループワークのなかで、「その学識者達に、『なぜその資料が必要で、それがあれば何が良くなるのか』をあなたが聞いたらいいいんじゃない」と言ってもらって、自分の役割がイメージできた。
- ・自分の意見が議事録に載ったり、政策が良くなると嬉しい。
- ・事務局の席のレイアウトについて、遠くになると何を言っているのかもわからないし、会議に参加している意識も薄れる。レイアウトについても意識してほしい。

6 アンケート（回収数 22名）

（アンケートの主な意見）

①公募委員サロン参加の動機

- ・自分のいる会議にどのように関わっていったらいいかわからなかった。
- ・他の委員と交流を持ちたかった。
- ・市民公募委員としての務めを果たすため。
- ・たまたまお知らせが来たから。

②参加後の心境の変化や抱負

- ・自分の感覚、素朴な発言も望まれていることがわかった。
- ・筋を通してしっかり意見を出したい。
- ・事務局ともっと積極的に関わりを持ち、会議に臨みたい。
- ・それぞれの立場があることが分り、その中で自由に発言していけたらいいのだと気づかされた。
- ・事務局職員として、市民公募委員の方の意見をしっかり聞く姿勢を持ちたい。
（市職員）

③公募委員サロンの良かった点

- ・いろいろな立場の方や、いろいろな体験をしている人と出会え、意見が聞けた。
- ・様々な立場の方がフラットに話しをしていて、雰囲気良かった。
- ・他の附属機関等の雰囲気を知ることができた。
- ・今後、自分が会議に参加する上で参考になる意見が聞けた。

④公募委員サロンの改善した方がいい点

- ・各附属機関等の特質・特性の違いを考慮することが必要。
- ・なあなあな雰囲気が感じられ、はじめは仲良しの集まりなのかと思った。
- ・アイスブレイクに時間がかかり、話す時間が足りなかった。
（今回の時間割であれば、グループの人数は5名ぐらいがよかったのではない
か。もう30分時間をとって、落ち着いてやりとりがしたい。等）
- ・もっとたくさんの方に参加してほしい。
- ・場所が分りにくかった。一般市民にはなじみがないので、入口に誘導員を配置
してほしい。

⑤今後も参加したいか

○参加したい（20名）

- ・いろいろな人と交流ができる。仲間と会える。
- ・今回とても有意義だったので。
- ・勉強になるので。

- ・内容によっては参加したい。
 - ・議論の論点が整理され、その先のアクションに繋がるのであれば参加したい。
- 無回答 (2名)

⑥今後の開催に当たって、聞いてみたいこと・開催アイデア

- ・市民公募委員としての実行力を高めるためのあり方をもっと議論したい。
- ・公募委員の活動を推進していくための、京都市職員の思いや工夫、ぶっちゃけ話が聞きたい。
- ・公募委員として会議に参加するようになって、自分自身で変わった点などを聞きたい。
- ・京都市にどれだけの附属機関等があり、何名の委員がいるのか知りたい。
- ・サロン後の交流会があってもよいのでは。
- ・なるべく早く開催日時を教えてください。